１２．寄生虫（耳ダニ、ノミ、疥癬、マダニ）

犬や猫と同様に、ウサギにも様々な内部と外部寄生虫がいます。年に一度、ウサギの糞を顕微鏡で検査することは、ウサギの健康のために不可欠です。獣医師は検査結果に応じて、必要な薬を処方します。

ノミ、マダニ、疥癬、耳ダニなどの外部寄生虫もウサギに感染する可能性があります。他のペットに使用されている多くの製品がウサギには有害であるため、ここでも獣医による適切な治療法のアドバイスが必要です。

アドバンテージはウサギのノミの治療と予防に登録されています（とても小さいウサギには注意が必要です)。フロントラインやその他の犬・猫用のノミ駆除剤は、ウサギには絶対に使用しないでください。また、外用薬が最近塗布された場合は、ウサギが犬や猫を舐めないようにしてください。

うさぎの耳ダニの感染は、寄生虫 Psoroptes cuniculiis によって引き起こされます。主な症状は、内耳の皮膚の鱗屑で、これが大きくて厚い痂皮状の病変になり、周囲の毛が抜けます。耳ダニは通常、緊急を要するものではありませんが、放置すると病変部が感染し、平衡感覚や聴力の低下を引き起こす可能性があります。 うさぎに耳ダニがいる場合、耳の周りや頭、首をかゆがり、頭を振ったり、外耳道に濃いベージュ色の液体が出ることがあります。

ハエトリグサ
うさぎのハエ叩きは壊滅的な症状で、特に暖かい季節によく見られます。これは、尿や軟便で汚れた湿った毛皮に引き寄せられる Lucilia sericata（グリーンボトルフライ）によって引き起こされます。

1 匹のハエが最大で 200 個の卵を動物の臀部などの皮膚に産み付け、数時間でウジ虫に孵化します。ウジ虫はウサギの肉を食べて成長し、一斉に恐ろしいほどの速さで広い範囲の皮膚を侵食する。通常、ウサギのお尻、尻尾、お腹、背中が最も被害を受けやすい。

三鷹獣医科グループ・新座獣医科グループ　代表
日本動物病院福祉協会認定の内科認定医
特定非営利活動法人、小動物疾患研究所　理事長　　小宮山典寛